

2022年7月 JICA 月次レポート

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. 保護者や地域住民を対象に、事業の紹介と安全な月経時の衛生管理や女子の教育の重要性についての啓発を目的としたコミュニティ会合の実施
2. 教員監督のもと、布ナプキンの作成、月経時の衛生管理に関する指導やトレーニング、学校施設の管理など、Child-to-child approach（生徒から生徒へ教える方法）を実施する月経衛生管理（MHM）クラブの設立（ムベンデ県・ワキソ県）
3. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
4. Happy-Pad プロモーションセンターでのナプキン作成トレーニング（ワキソ県）
5. ラジオトークショーの実施（ブタンバラ県）
6. 学校衛生施設の視察

1. 保護者や地域住民を対象に、事業の紹介と安全な月経時の衛生管理や女子の教育の重要性についての啓発を目的としたコミュニティ会合の実施

この活動では各対象校の地域住民の男女 50 名を対象に、3 県で計 30 回の会合を開催、合計 1,500 名に対し啓発を行う予定である。既に6月に2回実施したために、今月は残りの28回、1,400名を対象として実施する。活動の主な目的は月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育に関する問題、更に女子生徒が学校に通うことの重要性において関係者が持つそれぞれの役割を認識させることであり、今回の会合でも母親、父親、地域の指導者、教員などの関係者にそれぞれの役割を再確認させることに焦点をあてた。以下は各県の詳しい活動内容である。

ムベンデ県

8 地域にてコミュニティ会合を実施した。対象校の保護者会、学校運営委員会から目標の対象人数 400 名のうち、300 名（女性 146 名、男性 154 名）の参加者を対象に啓発活動を行った。

- Kaabowa 初等学校（7月6日）
- Kiyiita 初等学校、St. Mary's Gwanika 初等学校（7月7日）
- Ikula 初等学校、Dyangoma 初等学校（7月8日）
- Kasasa 初等学校（7月11日）
- CAWODISA 初等学校（7月12日）
- Kasaana Church of Uganda 初等学校（7月13日）

ワキソ県

10 地域にてコミュニティ会合を実施した。対象校の保護者会、学校運営委員会から目標の対象人数 500 名のうち、454 名（女性 289 名、男性 165 名）の参加者を対象に啓発活動を行った。

- Ssayi Bright 初等学校、Kitanda C/U 初等学校（7月4日）

- Ssanga C/U 初等学校 (7月5日)
- Lwadda C/U 初等学校 (7月6日)
- Kitungwa C/U 初等学校、Kirolo Umea 初等学校、Kanyange 初等学校 (7月7日)
- Buwambo C/U 初等学校、Jinja Karoli 初等学校、Maganjo Umea 初等学校 (7月13日)

ブタンバラ県

10地域にて7月のコミュニティ会合には225名が参加、6月は180名が参加したため、合計で405名を対象に啓発活動を行った。

- Lwamasaka 初等学校、Butende 初等学校 (7月14日)
- Kitagobwa 初等学校 Nkokoma 初等学校、Ntolomwe 初等学校、Bule 初等学校 (7月16日)
- Kiwala 初等学校、Nawango 初等学校、Kayenje 初等学校、Butalunga 初等学校 (7月21日)

<ムベンデ県>

		
会合の参加者 (St. Mary's Gwanika 初等学校)	プロジェクトマネージャー (St. Mary's Gwanika 初等学校)	会合の参加者 (Ikula 初等学校)
		
会合の参加者 (Dyangoma 初等学校)	会合の参加者 (Kasaana 初等学校)	会合の参加者 (Kasasa 初等学校)

		
会合の参加者 (Kaabowa 初等学校)	会合の参加者 (CAWODISA 初等学校)	会合の参加者 (Kiyiita 初等学校)

<ワキソ県>

		
プロジェクトオフィサー (Ssayi Bright 初等学校)	会合の参加者 (Kitanda 初等学校)	会合の参加者 (Ssanga 初等学校)
		
会合の参加者 (Kirolo UMEA 初等学校)	会合の参加者 (Lwadda 初等学校)	会合の参加者 (Kitungwa 初等学校)

<ブタンバラ県>

		
会合の参加者 (Kiwala 初等学校)	会合の参加者 (Lwamasaka 初等学校)	会合の参加者 (Kitagobwa 初等学校)

2. 教員監督のもと、布ナプキンの作成、月経時の衛生管理に関する指導やトレーニング、学校施設の管理など、Child-to-child approach (生徒から生徒へ教える方法) を実施する月経衛

生管理（MHM）クラブの設立（ムベンデ県・ワキソ県）

ムベンデ県、ワキソ県の各校で合計 20 の月経衛生管理クラブを設立した（ブタンバラ県では先月に設立）。月経衛生管理クラブは女子 10 名、男子 5 名とし、そのうち女子 1 名が部長となり、男子 1 名が補佐として学校での月経衛生管理活動を動員する。ほとんどの学校はコミュニティ会合の中でクラブを結成したが、ムベンデ県の Christ the King 初等学校、Katega 初等学校はコミュニティ会合を前月に終えていたため、学校に協力を仰ぎクラブを結成した。教員の手助けのもと各県で 300 名（女子 200 名、男子 100 名）のクラブ員が選抜され、役割や責任に関する認識を促した後に以下の集合写真を撮影した。

<ムベンデ県>

		
St Mary's Gwanika 初等学校	Ikula 初等学校	Dyangoma 初等学校
		
Kasaana 初等学校	Kaabowa 初等学校	Kasasa 初等学校
		
CAWODISA 初等学校	Kiyiita 初等学校	Christ the King 初等学校
		
Katega 初等学校		

<ワキソ県>

		
Buwambo 初等学校	Kirolo 初等学校	Ssayi Bright 初等学校
		
Ssanga C/U 初等学校	Kitungwa 初等学校	Kanyange 初等学校
		
Kitanda 初等学校	Jinja Karoli 初等学校	Maganjo Umea 初等学校

3. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下のよう
に放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1日6回）
- ワキソ県：Voice Kiryagonja（1日2回）
- ブタンバラ県：Voice of Butend、Voice of Kikambwe（毎日繰り返して10～11回）

➤ **反響**

- 適切な月経衛生管理に関するメッセージがラジオを通して地域住民に届いており、月経衛生管理の知識や情報を伝達する手段として機能している。
- ラジオからのメッセージが月経衛生管理を女性だけの問題とするのではなく男性にも役割があることを再認識させる手助けとなっていることを特に女性の地域住民が証言している。

4. Happy-Pad プロモーションセンターでのナプキン作成トレーニング

7月は13歳～17歳の学生、合計で92名（男子33名、女子59名）に対しトレーニングを行った。トレーニングはHappy-Pad プロモーションセンターで毎週月曜～土曜に実施しており、現在も継続

中である。これまでに合計 122 枚のナプキンを作成した。ナプキン作成に関する普及活動も地域で実施しており、68 名（男性 27 名、女性 41 名）の住民が参加した。

反響

- 周囲の男性や男の子たちの態度が、月経中の女子に対して無関心ではなく、サポートしようとする方向に変わりつつある。
- 使い捨てナプキンと比較して、当センターで作成するナプキンは費用対効果が高い点から男子も女子も興味を示している。
- スマートで柔らかく、快適な布ナプキンを作るために必要な材料に関して女性、男性の両方が理解するようになった。

		
happy-pad 作成セッションでの男子生徒、女子生徒	スタッフが男子にナプキン作りの指導をしている様子	happy-pad 作成セッションでの女子生徒たち

5. ラジオトークショーの実施（ブタンバラ県）

7月10日にラジオ「Voice of Butende」、「Voice of Kikambwe」でトークショーを実施し、適切な月経衛生管理やそれぞれが持つ責任において地域に啓発を行った。

➤ トークショーの主な内容

- 子どもの月経衛生管理の問題における保護者の責任について再認識させること。
- 間違った偏見のない自由な環境の中で女子が成長できるよう、宗教指導者や学校関係者の責任や関りを強化し環境改善に努めること。

	
Voice of Butende にて	Voice of Butende トークショー

6. 学校衛生施設の視察

ムベンデ県とワキソ県ではコミュニティ会合の際に視察を行った。施設の状態が維持されている学校や衛

生状況が改善した学校もあった。ブタンバラ県では Bule、Nkokoma、Kiwala、Ntolomwe、Nawango、Kayenje、Kitagobwa の 7 校を訪問し、事前に通知することなく視察を行ったが施設の状態は良く、衛生状況も維持されていた。また、設立した 10 校の月経衛生管理クラブのうち 6 校はきちんと機能していたが、2 校は中程度、2 校は活動を停止していた。評価ツールを取り入れている学校は 10 校中 4 校のみであり、うまく活用されていなかった。

<ムベンデ県>

		
更衣室付きのトイレ施設 (CAWODISA 初等学校)	改善した洗面所 (Kaabowa 初等学校)	鍵付きの洗面所の中側 (Dyangoma 初等学校)
		
鍵付きの洗面所の外側 (Dyangoma 初等学校)	新しく建設した更衣室 (Kasasa 初等学校)	更衣室と洗面所 (Kiyiita 初等学校)

<ワキソ県>

		
集水樋は建物の一部にしかついていなかった。(修繕前)	集水樋を建物の大部分にまで延長した。(修繕後)	集水樋が付いていなかった建物 (修繕前)
		
集水樋を他の建物まで延長した (修繕後)		

効果的な影響と教訓

活動	効果的な影響	教訓
ラジオトークショー	<ul style="list-style-type: none"> -ラジオを通して適切な月経衛生管理に関するメッセージが継続的に地域住民に届いている。(ブタンバラ県) -ラジオのホストは宗教指導者たちの参加に称賛を示した。(ブタンバラ県) 	
コミュニティ啓発	<ul style="list-style-type: none"> -保護者たちは会合で学んだ知識などを生活向上に向けて実際に活用していくことを約束してくれた。 -このような地域の会合を開いたことに対し、学校は感謝を示した。(ブタンバラ県) - Kiwala地区での会合の際に父親と娘の間にある溝を埋める努力するよう父親たちをお願いをする母親がいた。(ブタンバラ県) -Dyangoma初等学校をはじめナプキン作り用ミシンの提供に対し感謝を示した。(ムベンデ県) -学校は月経衛生管理がしやすい学校環境のあり方を高く評価しており、緊急用ナプキンや下着、制服の着替えなどを常備しておくように努めてくれるようになった。(ムベンデ県、ワキソ県) -多くの生徒や保護者が活動に感謝しており、SORAK の認知度も上がってきた。(ムベンデ県、ワキソ県) -月経衛生管理の問題に男性が参加するという点において会合はインパクトがあった。 -月経衛生管理の問題に関して男性にも非常に重要な役割があることを参加した男性たちは学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> -いまだ多くの誤解や障壁が確認されたため、今後も啓発活動を継続していく必要がある。

学校衛生施設の視察と月経時の衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> -衛生基準の向上、改善に向けて学校の理解と協力が得られた。 -対象校の運営者が積極的に参加してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> -事前連絡なしで視察を行うことによって普段の管理状況を明確に把握することができた。(ブタンバラ県) -適切な施設管理・月経時の衛生管理のためにモニタリングツールの使用を強化する必要がある。 -きちんと機能していない月経衛生管理クラブがあるため、能力を構築していく必要がある。(ブタンバラ県)
月経衛生管理クラブの設立	<ul style="list-style-type: none"> -学生たちは月経衛生管理の問題に関するアイデアを出せる点から、月経衛生管理クラブに興味を持って喜んで参加した。(ムベンデ県、ワキソ県) -月経衛生管理の問題に関する情報をより多くの生徒へ伝達するプラットフォームとしても機能することから教員たちは月経衛生管理クラブの設立案を快諾した。(ムベンデ県、ワキソ県) 	<ul style="list-style-type: none"> -月経衛生管理クラブに関して学校全体を啓発していく必要がある。(ムベンデ県、ブタンバラ県、ワキソ県)
プロモーションセンター（ワキソ県）	<ul style="list-style-type: none"> -女性だけでなく男性、男の子もトレーニングし、月経衛生管理に関する知識を習得している。 -男子生徒たちが生理中の女子生徒たちを変な目で見ることがなくなった。 -月経を理由に学校を欠席することがなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> -プロモーションセンターが提供している素晴らしいサービスを広めていくためにも教会やモスク等の公的施設で大規模な啓発を行っていく必要がある。

今後の課題とその取り組み

活動	課題	解決策
ラジオトークショー	<ul style="list-style-type: none"> -ラジオが届くエリアが限られていること。(ブタンバラ県) 	<ul style="list-style-type: none"> -ラジオで得た情報を共有するように住民たちに働きかける。
コミュニティ啓発	<ul style="list-style-type: none"> -地域住民の慣習的固定観念や変化に消極的な保守的姿勢 -月経衛生管理において親を責任から阻んでしまう宗教的誤解 -言語の障壁。一地域内に四つの部 	<ul style="list-style-type: none"> -ラジオトークショーやスポットメッセージを通して慣習的認識に関しても啓発していく。 -月経衛生管理の問題に関して宗教リーダーに働きかけるべく啓発運動を継続的に行っていく。 -参加者が内容を理解し、意見を述べ

	<p>族が存在することからプロジェクトチームは主にルガンダ語を使用している。ほとんどは理解できるが、理解できないメンバーもいた。(ムベンデ県)</p> <p>-コミュニティ会合では時間管理ができていない参加者がほとんどの学校で見受けられた。(ムベンデ県、ワキソ県)</p> <p>-読み書きができない保護者や、評価ツールへの回答を恥ずかしがるものもいた。(ムベンデ県、ワキソ県)</p> <p>-事前に保護者会合を終えていた上、出席しなかった PTA メンバーもいたため参加者数が予定を下回ってしまった。(ムベンデ県)</p>	<p>るのにスタッフが通訳し、補助した。(ムベンデ県)</p> <p>-一定の人数が集まるまで待っていたため、開始時間に遅延が生じた。(ムベンデ県、ワキソ県)</p> <p>-アンケート記入の際に一对一での対応が必要となった。(ムベンデ県、ワキソ県)</p> <p>-特定の授業へ保護者の参加を呼び掛けた。(ムベンデ県)</p>
学校衛生施設の視察	<p>-月経衛生管理クラブの導入においてまだまだ課題があること。(ブタンバラ県)</p> <p>-管理者が怠惰であること。</p>	<p>-継続中の活動に加え月経衛生管理クラブメンバーの能力向上を目指す。(ブタンバラ県)</p> <p>-学校での啓発活動を盛んに行う。</p> <p>-成果を出せている学校と遅れが生じている学校間での訪問交流会を計画する。</p>
プロモーションセンター (ワキソ県)	<p>-今後も月経衛生管理の問題に関して広範囲に啓発活動をしていく必要がある。</p>	<p>-プロモーションセンターで提供しているサービスに関して地域のラジオ (Voice of Kawanda, Voice of hope, Kirinyabigo and voice of Katalemwa) を通して宣伝していく。</p>
月経衛生管理クラブの設立	<p>-月経衛生管理の活動が十分に行えないほど多忙な学校のスケジュール。(ムベンデ県、ワキソ県)</p>	<p>-各学校で月経衛生管理の活動を継続できるように学校運営が時間の管理に努める。(ムベンデ県、ワキソ県)</p>